退院した人が同じ種類の場所へ戻る割合は、家庭から来た人で 0.885、介護老人保健施設・介護老人福祉施設・社会福祉施設から来た人で 0.524〜0.646——家庭へ帰る割合は 40〜44 歳の 0.956 から 90 歳以上の 0.458 に下がるが、入院前の場所の構成で説明できるのはその下がりの 0.454 で、半分に届かない [M091]

家庭へ帰る割合の年齢の差 ＝ 入院前の場所の構成の分 ＋ 同じ場所から来た人の中の分 ── 分けるのは、どこから来たかか、同じ場所から来た人の中の違いか

山岸 勇輝（Yuuki YAMAGISHI）／ Independent Researcher
ORCID 0009-0006-8587-3450
2026 年 9 月 ／ CC BY 4.0

要旨

厚生労働省の患者調査（2023 年 9 月の退院）の第93表（入院前の場所 × 退院後の行き先）・第96表（退院後の行き先 × 年齢）・第89表（入院前の場所 × 年齢）で、退院後の行き先がどこから来たかでどこまで決まり、家庭へ帰る割合の年齢の差のうち、入院前の場所の構成で説明できるのはどれだけかを見た。新しい数学定理も新しい法則も主張しない。

第一に、表はそろっている。第93表は行き先の和も入院前の場所の和も総数と一致し（丸めの差は最大 0.1 千人）、第96表・第89表の総数は第93表の総数の行・列と一致する（第3節）。

第二に、**2023 年 9 月の退院 1,388.2 千人のうち、家庭から来た人の 0.885 が家庭へ帰り、介護老人保健施設から来た人の 0.524、介護老人福祉施設から来た人の 0.567、社会福祉施設から来た人の 0.646 が同じ種類の施設へ戻る。他の病院・診療所から来た人は、家庭へ 0.436、他の病院・診療所へ 0.236 である**（第4節）。

第三に、**退院後の行き先が「その他（死亡・不明等）」の割合は、家庭から来た人の 0.043 がいちばん低く、他の病院・施設から来た人では 0.159〜0.286 である**（第4節）。

第四に、ここが本稿の芯である。**家庭へ帰る割合は 40〜44 歳の 0.956 から 90 歳以上の 0.458 へ 0.498 下がる。入院前の場所の構成だけから見込むと（入院前の場所ごとの家庭へ帰る割合が年齢によらず同じだったら）0.871 から 0.645 へ 0.226 下がり、実際の下がりの 0.454 にあたる。** 残りは、同じ場所から来た人の中の年齢による違いにあたる（第5節）。

第五に、**実際が見込みを上回るのは 1〜4 歳から 70〜74 歳まで、75〜79 歳からは下回り、90 歳以上では 0.188 下回る。** 90 歳以上は入院前が家庭の人が 0.645 で、退院後が「その他（死亡・不明等）」の割合は 0.191 である（第5節）。

第六に、分けるのは**どこから来たかか、同じ場所から来た人の中の違いか**である。「年を取ると家に帰れなくなる」は、施設などから入院する人の割合が増える分と、家庭から来た人でも家庭へ帰る割合が下がる分の二つを一つに呼んでおり、90 歳以上への下がりでは後者のほうが大きい。

射程注記：本稿は新しい数学定理も新しい法則も主張しない——入院前の場所と退院後の行き先は公開の表にあり、本稿は行き先の割合を入院前の場所ごとに出し、年齢の差を入院前の場所の構成の分とそれ以外に分けただけである。**本稿は公開の集計データの数の形を述べる構造的解釈であり、医学的な助言・診断・治療の推奨ではない。著者は医師ではない。個人の健康に関する判断は医師・医療機関に相談すること。査読を経ていないプレプリントである。 どこへ退院すべきか、家庭と施設のどちらがよいか、病院・施設・介護の良し悪しには立ち入らない。** 退院後の行き先の「その他」には死亡と不明などが一緒に入っており、本稿はそれを分けない。入院を経験した人や家族、介護にあたる人を責めるものではない。「入院前の場所の構成だけの見込み」は、入院前の場所ごとの家庭へ帰る割合が年齢によらず同じだったら、という置き方で、年齢別のその割合は表に無いので、残りの分（同じ場所から来た人の中の違い）は直接は測っていない。家庭へ帰る割合が年齢で下がる理由は、この表では分けられない。調査は 2023 年 9 月の一か月の退院である。都道府県・医療機関は比べない。**データについて**：患者調査（厚生労働省）は e-Stat から取り、政府標準利用規約（第2.0版）に従って使い、本稿の割合と見込みは、これを加工して作成した。本稿が加えたこと：**入院前の場所と退院後の行き先の組み合わせから同じ種類の場所へ戻る割合を出し、家庭へ帰る割合の年齢の差のうち、入院前の場所の構成で説明できるのが 40〜44 歳から 90 歳以上への下がりの 0.454 であることを示した**こと。

---

1. 記号と問い

- **同じ種類の場所へ戻る割合**：入院前の場所ごとに、退院後の行き先が同じ種類の場所だった割合。
- **入院前の場所の構成だけの見込み**：ある年齢階級の入院前の場所の割合に、年齢をまとめた「入院前の場所ごとの家庭へ帰る割合」を掛けて足したもの。
- **構成で説明できる割合**：40〜44 歳から 90 歳以上への、見込みの下がり ÷ 実際の下がり。

問い：退院後の行き先は、どこから来たかでどこまで決まるのか。年齢が上がると家庭へ帰る割合が下がるのは、施設などから入院する人が増えるからなのか、同じ場所から来た人でも帰る先が変わるからなのか。

観察 1.1：M009 は、同じ患者調査の退院の表から、「平均在院日数」が退院していく人たちの平均であることを示した。本稿は、同じ退院の表で、退院の前と後の場所を見る。

---

2. 下見と設計

正直に書く：設計は表を見てから決めた。

	内容
表	患者調査 令和5年 全国編 第93表（入院前の場所 × 退院後の行き先）・第96表（退院後の行き先 × 性・年齢階級）・第89表（入院前の場所 × 性・年齢階級）。2023 年 9 月の退院
下見で気づいたこと	入院前の場所 × 退院後の行き先 × 年齢の三つを一緒に持つ表は無かった。そこで、年齢ごとの入院前の場所の割合（第89表）と、年齢をまとめた行き先の割合（第93表）から、構成だけの見込みを作り、実際（第96表）と比べた
下見で気づいたこと（2）	0 歳は、新生児が入院前の場所の「その他」に入り、入院前が家庭の割合が 0.360 と低い。年齢の比べ方からは外した
比べ方	入院前の場所ごとの行き先の割合、年齢ごとの家庭へ帰る割合の実際と構成だけの見込み

---

3. データと確かめ

計算 3.1 取得したファイル 3 本を SHA-256 で固定し、次を確かめた。

- 第93表は令和5年9月・単位は千人。入院前の場所と退院後の行き先の上の段はそれぞれ 7 つ。行き先の和 − 総数は最大 0.0、入院前の場所の和 − 総数は最大 0.1 千人（丸め）。

- 第96表・第89表の列は第93表と同じ並びで、総数は第93表の総数の行・列と一致する。年齢階級（0 歳〜90 歳以上と不詳）の和 − 総数は最大 0.3 千人。

---

4. どこから来て、どこへ帰るか

計算 4.1 入院前の場所ごとの退院後の行き先（第93表・総数・割合）

入院前の場所	退院（千人）	家庭へ	他の病院・診療所へ	同じ種類の施設へ	その他（死亡・不明等）
家庭	1207.3	0.885	0.055		0.043
他の病院・診療所	94.1	0.436	0.236		0.208
介護老人保健施設	14.5	0.062	0.103	0.524	0.221
介護老人福祉施設	24.7	0.049	0.093	0.567	0.211
社会福祉施設	22.6	0.053	0.097	0.646	0.159

観察 4.2：家庭から来た人の **0.885** が家庭へ帰り、介護老人保健施設・介護老人福祉施設・社会福祉施設から来た人の **0.524〜0.646** が同じ種類の施設へ戻る。他の病院・診療所から来た人は、家庭へ **0.436**、他の病院・診療所へ **0.236** である。 介護医療院から来た人は 1.4 千人と少なく、割合は丸めで大きく動くので表に並べていない。

観察 4.3：退院後の行き先が「その他（死亡・不明等）」の割合は、家庭から来た人の **0.043** がいちばん低く、他の病院・施設から来た人では **0.159〜0.286** である。

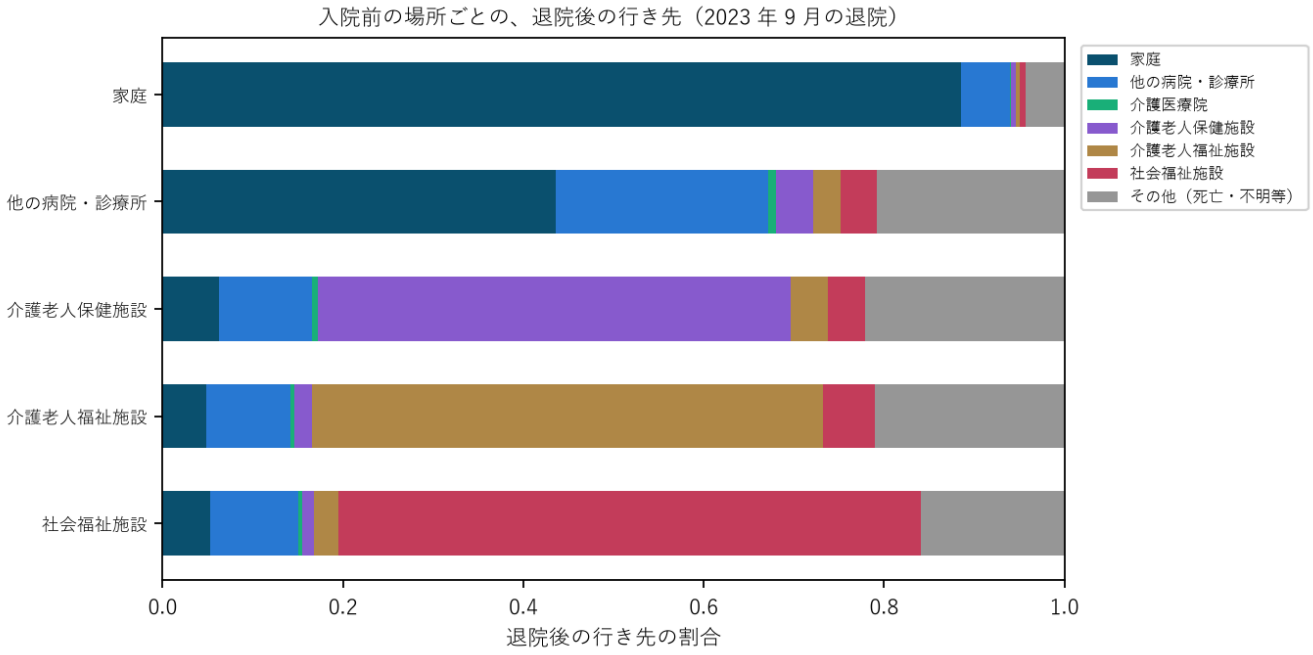


図1：入院前の場所ごとの、退院後の行き先の割合（2023 年 9 月の退院）。

---

5. 芯——入院前の場所の構成で、どこまで説明できるか

計算 5.1 家庭へ帰る割合：実際と、入院前の場所の構成だけの見込み

年齢	退院（千人）	入院前が家庭	家庭へ（実際）	家庭へ（構成だけの見込み）	差
1〜4 歳	26.3	0.985	0.981	0.883	+0.098
40〜44 歳	34.2	0.968	0.956	0.871	+0.085
70〜74 歳	163.1	0.915	0.862	0.841	+0.021
75〜79 歳	178.3	0.891	0.823	0.826	-0.003
80〜84 歳	172.7	0.845	0.745	0.796	-0.050
85〜89 歳	141.1	0.759	0.624	0.737	-0.113
90 歳以上	119.0	0.645	0.458	0.645	-0.188

観察 5.2：家庭へ帰る割合は 40〜44 歳の 0.956 から 90 歳以上の 0.458 へ 0.498 下がる。入院前の場所の構成だけの見込みは 0.871 から 0.645 へ 0.226 下がり、実際の下がりの 0.454 にあたる。 残りは、同じ場所から来た人の中の年齢による違いにあたるが、年齢別の「入院前の場所ごとの家庭へ帰る割合」は表に無いので、直接は測っていない。

観察 5.3：実際が見込みを上回るのは 1〜4 歳から 70〜74 歳までの 15 の年齢階級で、75〜79 歳からは下回る。 見込みは年齢をまとめた割合を使うので、若い年齢では実際が見込みより高く、年配の年齢では低く出る。90 歳以上の差は −0.188 である。退院後が「その他（死亡・不明等）」の割合は、40〜44 歳 0.015、75〜79 歳 0.061、90 歳以上 0.191 である。

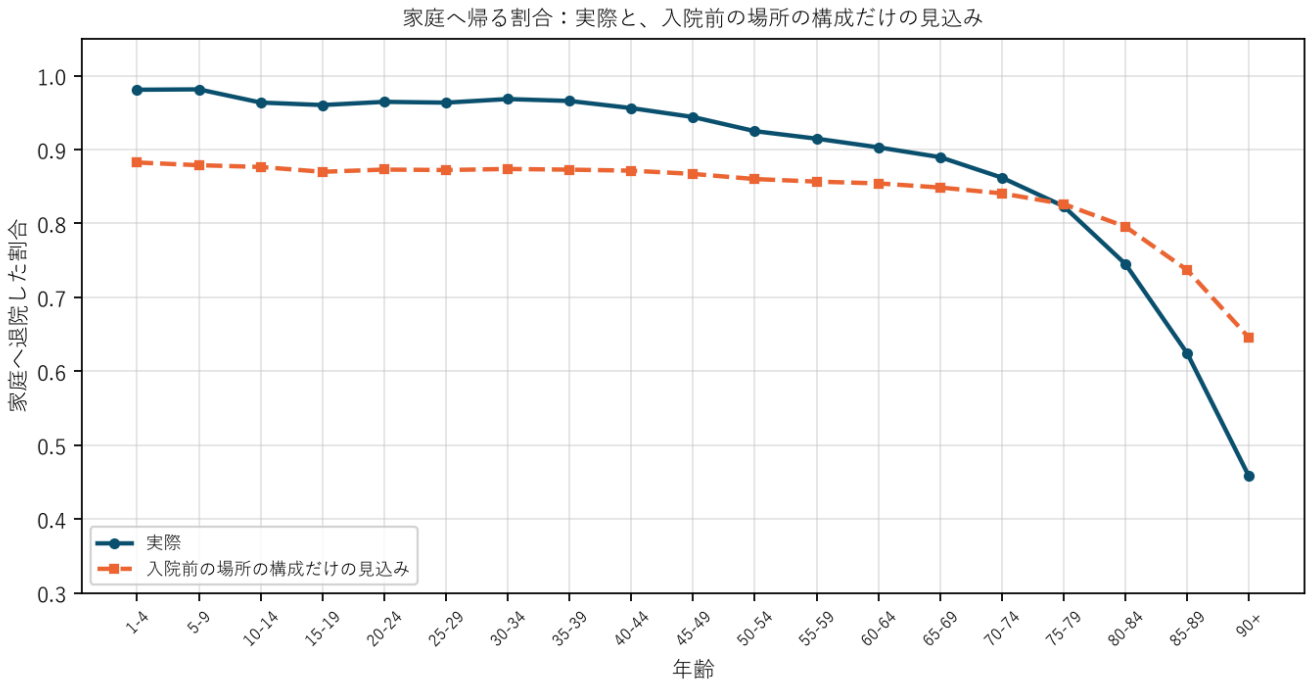


図2：家庭へ帰る割合：実際（紺）と、入院前の場所の構成だけの見込み（橙の破線）。

---

6. 限界

1. **構成だけの見込みは、入院前の場所ごとの家庭へ帰る割合が年齢によらず同じだったら、という置き方である。** 年齢別のその割合は表に無く、残りの分は直接は測っていない。
2. 退院後の行き先の「その他」には死亡と不明などが一緒に入っており、本稿は分けない。
3. 調査は 2023 年 9 月の一か月の退院で、季節の違いは見ていない。同じ人が何度も退院すれば、その回数だけ数えられる。

4. 家庭へ帰る割合が年齢で下がる理由は、この表では分けられない。
5. どこへ退院すべきか、家庭と施設のどちらがよいか、病院・施設・介護の良し悪しには立ち入らない。

結び

退院した人のうち、家庭から来た人は 0.885 が家庭へ、介護老人保健施設・介護老人福祉施設・社会福祉施設から来た人は 0.524〜0.646 が同じ種類の施設へ戻った。家庭へ帰る割合は 40〜44 歳の 0.956 から 90 歳以上の 0.458 に下がったが、入院前の場所の構成で説明できるのはその下がりの 0.454 で、半分に届かなかった。

分けているものは一つ——どこから来たかか、同じ場所から来た人の中の違いか。

「年を取ると家に帰れなくなる」と聞いたら、**どこから入院した人が増えた話か、同じ家庭から来た人でも帰る先が変わった話かを、一緒に確かめる。**

データと再現

データ	患者調査 令和5年 全国編 第93表・第96表・第89表（厚生労働省・e-Stat）（2026 年 9 月 26 日に取得）
利用条件	e-Stat は政府標準利用規約（第2.0版）に従う。本稿の割合と見込みは、これを加工して作成したもので、国が作成した数ではない
範囲	日本・2023 年 9 月の退院（推計退院患者数）・病院と一般診療所の総数
検算	`検算/M091.py`（`--zu` で図も書く）。本文の数字はすべて `検算/M091_output.txt` から取った
生データ	`data/` に取得したファイルと `SOURCES.md`（URL・取得日・SHA-256・利用条件・定義と計算の置き方）
図	`図/M091_zu1`・`図/M091_zu2`（png・svg・英語版）

参考文献

- 厚生労働省. 患者調査 令和5年 全国編 第93表・第96表・第89表. e-Stat（2026年9月26日に利用）. https://www.e-stat.go.jp/
- 山岸勇輝 (2026).「平均在院日数」は、退院していく人たちの平均である [M009]. Zenodo. https://doi.org/10.5281/zenodo.22965052